

訪問を歓迎します

言語教育情報研究科への進学を考えている方、ぜひ実際にキャンパスへ来てみませんか？

本学では春と秋に大学院入試説明会を開催していますので、気軽に参加してみてください。

詳細は<<http://www.ritsumei.ac.jp/gsleis/>>をご覧ください。

言語教育情報研究科の教員と連絡をとりたい場合は、研究テーマと研究計画を衣笠独立研究科事務室にメールでお送りください（入学試験出願開始日2週間前から入学試験当日までは取り扱っておりません）。

詳細は言語教育情報研究科のHPをご覧ください。

衣笠キャンパス 交通アクセスマップ

<http://www.ritsumei.ac.jp/accessmap/kinugasa/>



キャンパスマップ

<http://www.ritsumei.ac.jp/campusmap/kinugasa/>



<2020.6発行>

LEducation
language and Information
Sscience

立命館大学大学院 言語教育情報研究科

Graduate School of Language Education and Information Science
Ritsumeikan University



立命館大学衣笠独立研究科事務室

TEL: 075-465-8363 FAX: 075-465-8364

E-Mail: doku-ken@st.ritsumei.ac.jp

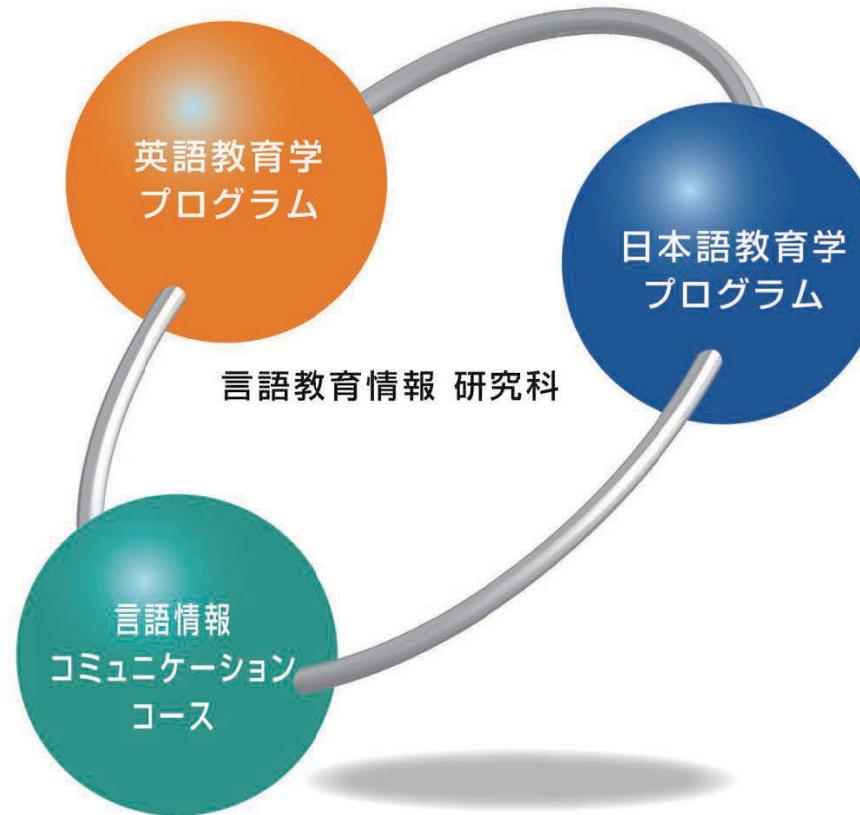
言葉を探る 言葉を教える

言語教育情報研究科は「言葉を探り、言葉を教える」基盤を学び、研究する場所です。言葉は、人間のあり方、社会のあり方を考える上で不可欠の要素です。グローバル化、外国人労働者の受け入れ、機械翻訳、危機言語・方言の維持・復興、言語能力の生物学的な基盤、いずれも言語が問題となっています。このような今日的な課題を考える上で必要になるのが言語そのものの仕組みについての学問（言語学）と言語教育学や社会言語学といった学際的な学問です。

本研究科は、日本語教育・英語教育の専門家を目指す人たちと言語に関する様々な領域の専門家を目指す人たちに門戸を開放しています。学部を出たばかりの方と言葉に関わる仕事をしてきた方、日本人と留学生、関心だけでなくバックグラウンドも多様な院生がお互いに刺激を与えながら研究しています。

言葉に関連する学問は日進月歩で発展しています。本研究科は、高性能の脳実験装置や大規模なコーパスを処理するためのコンピュータを有するとともに国内外での教育実習の場も用意されており、学問の進歩と社会からの要請に応えられる体制が整備されています。立命館大学は各種研究助成制度も充実しています。大学院に入ってから成長する心構えのある方を歓迎します。

研究科長 佐々木 冠



カリキュラム構成

言語教育情報研究科は言語教育学と言語情報コミュニケーションの2コースからなり、言語教育学コースはさらに英語教育学と日本語教育学の2つのプログラムに分かれます。カリキュラムは、研究科の学問分野全体をカバーする共通科目群、各コース・プログラムの専門分野を深く掘り下げる専門科目群、そして、修士課程での研究の集大成となる修士論文あるいは特定課題研究に関する報告論文を仕上げるための課題研究演習I・II(必修)で構成されています。

言語教育情報研究科では、理論と実践を往還させながら、2年間の研究に取り組みます。柔軟なカリキュラムは特徴のひとつで、所属するプログラム・コースを問わず、日本語教育演習など一部の科目を除いて、各プログラム・コースの専門科目を履修することができます。これにより多様なアプローチで自らの研究テーマを掘り下げることができます。また、夜間時間帯にも科目を開講し、現職社会人院生が学びやすい環境を整えています。



2年間の流れ			
春4月入学の場合	1年次春セメスター	1年次秋セメスター	2年次春セメスター
	1年次研究指導計画書の提出(4月) 構想発表会(12月) ゼミ希望の提出(1月) ゼミ所属決定		2年次研究指導計画書の提出(4月) 中間報告会(10月) 修士論文・特定課題研究に関する報告論文の提出(1月) 口頭試問(1~2月) 学位授与・修了(3月)

秋9月入学の場合			
	1年次秋セメスター	1年次春セメスター	2年次秋セメスター
	1年次研究指導計画書の提出(10月) 構想発表会(6月) ゼミ希望の提出(7月) ゼミ所属決定		2年次研究指導計画書の提出(10月) 中間報告会(4月) 修士論文・特定課題研究に関する報告論文の提出(7月) 口頭試問(7~8月) 学位授与・修了(9月)

英語教育学プログラム

■ 特徴

日本の英語教育は、従来の言語知識偏重の教育から、実践的コミュニケーション能力を養成する方向に大きく舵が切られました。これから英語教員には、英語教育学に関する高いレベルの知識と指導力、教師自身の英語運用能力、そして高い学習目標と動機付けによる意欲的な学習と、達成感から生まれる大きな喜びを、学生・生徒に与えることが求められています。本プログラムではこのような教育理念に基づき、国際通用性を獲得した英語教員を養成するために、外国語としての英語教育学に関する深い専門知識を得る科目履修に加えて、海外でのTESOL Certificateの取得(P8参照)や日本の学校教育現場でのインターンシップを両輪としたカリキュラムを組んでいます。

■ どんな力がつくのか

第二言語習得論、外国語学習者方略、音声学・音韻論、早期英語教育論、言語教育における測定と評価に加えて、英語教材開発演習や英語授業研究演習及びインターンシップなど実践研究科目を履修することで、英語教育学の理論と実践を結合した力が身につきます。更に、海外協定校で開講されるTESOL Certificate取得プログラムに参加することで、国際的な水準に見合う英語教育・教授資格を得ることができます。

■ 専門科目例

英語教育学01(英語教授法論)
英語教育学02(第二言語習得論)
英語教育学03(英語学(音声学・音韻論))
英語教育学04(英語学(文法論))
英語教育学05(早期英語教育論)
英語教育学06(言語教育における測定と評価)
英語教育学07(英語教育における語彙習得論)
英語教育学08(英語教育学の諸問題)
英語教育学演習01(英語教材開発演習)
英語教育学演習02(英語教育インターンシップ)
英語教育学演習03(英語授業研究演習)
英語教育学演習04(電子教材開発演習)
など



在学生の声



ニユウ ユイさん
(2019年4月入学)

を深めるため本研究科への入学を決意し、今に至っています。これからも英語教育は、私の一生の研究テーマになると思います。学習者は一人一人個性にあふれており、学力や学習のスタイルも多種多様であるため、将来教える立場に立つには自分自身の視点を高く持ち、柔軟に研究をする必要があります。その点で、本研究科は分野の垣根を越えて、最先端のCALL教材開発やコーパスの応用・プログラミングなど幅広い学問を学ぶことができます。また、学部段階で身につけた英語力をより磨きながら、大学院でより広い学問を学ぶだけでなく、実践の場である教育実習にも参加することができます。実際に、去年の夏はTESOL Certificate取得プログラムでオーストラリアに行きました。現地ではアンケート調査や授業観察などバラエティに富んだリサーチ手法を学ぶ実践的なクラスに参加しながら、今後の英語指導のベースとなる多くの英語教授に関する知識を身につけることができました。さらに、自分とは異なる文化や背景を持つ人々と触れ合うことができ、世界が広がりました。

修了後は、本研究科で学んだ「自由に挑戦する姿勢」、そして「相互理解・相互尊重」のための外国語を学習者に伝えられる英語の教員になることを目指しています。

日本語教育学プログラム

■ 専門科目例

日本語教育学01(日本語を対象とした第二言語習得論)

日本語教育学02(日本語教育学総論)

日本語教育学03(日本語教授法・教材論)

日本語教育学04(対照言語・文化論)

日本語教育学05(言語文化教育論)

日本語教育学06(年少者日本語教育論)

日本語教育学07(日本語学(音声学・音韻論))

日本語教育学08(日本語学(語彙・意味))

日本語教育学09(日本語学(文法))

日本語教育学10(語用論・談話分析)

日本語教育学11(日本語教育学の諸問題)

日本語教育学演習01(日本語教材開発演習)

日本語教育学演習02(電子教材開発演習)

日本語教育学演習03(日本語教育実践演習)

日本語教育学演習04(日本語教育演習)

など

主な日本語教育実習先

<海外>大連外国语大学(中国)・深圳大学(中国)・嘉泉大学校(韓国)

・長栄大学(台湾)・ホーチミン市師範大学(ベトナム)・ダブリンシティ大学(アイルランド)・グリフィス大学(オーストラリア)

<国内>京都日本語学校・京都文化日本語学校・立命館アジア太平洋大学

■ どんな力がつくのか

日本語教育学プログラムのカリキュラムを通して、日本語教師として日本語学習者や環境条件の多様性に対応できる実戦力、日本語を世界の言語の一つとして客観的に分析する力、そして、日本語教育学、第二言語習得論、日本語学などの分野で高度で専門的な研究を行う力を身につけることができます。また、多文化共生をめざした日本語教育プロジェクトや府立高校や市立高校での日本語ボランティア活動を通して地域社会に貢献する機会を提供しています。

在学生の声



ゴ ユウさん
(2019年4月入学)

中国の大学の日本語専攻を卒業した私は、日本のこと、日本語のことを理解したいという思いで日本への留学を考えていましたが、具体的に日本、日本語の何を勉強したいのか、自分でも理解できていませんでした。そこで、日本の大学の情報をウェブサイトから調べていたところ、本研究科の日本語教育学プログラムに目を惹かれました。日本語教育に関する様々な知識を獲得できるという本プログラムのカリキュラムは、私にとってとても魅力的でした。私のように大学で日本語を専攻していた留学生にとって、これまで蓄積してきた知識と経験を無駄にせず、さらに生かすことができると思ったからです。また、日本語教育を将来の仕事として

生きいくことも、かなり挑戦的であり、人生の価値を感じられます。自分が感じたような、日本語のかっこよさ、外国语を学ぶことの楽しさ、日本や日本文化の素晴らしいしさを人に伝えることは、その価値なのかもしれません。

基礎知識と研究能力の三方を重視する本研究科のカリキュラムは日本語教育者や言語学研究者の養成に最適だということを、入学後一年経って実感しています。立命館大学を選んでよかったと、改めて思います。

とはいえ、大学院での学修・研究は決して楽ではないこともあります。日本語教育学プログラムには、日本語学、第二言語習得、教育法、日本語教育政策など、様々な専門領域が関わり、さらに、自分の研究分野である日本語学だけを見ても形態論、統語論、意味論、語用論といった、多くの理論が関係します。しかし、日本語学、日本語教育学を専門とする先生方に基礎から教えて頂けるからこそ、大変なりながらも自信を持って大学院での学修や研究を続けることができます。

私は現在、言語の差異表現や日本語の記述文法を研究しています。日本人にはなかなか気づきにくい点に目を向け、日本語の変化について明らかにしたいと考えています。このことも外国人が日本語学習でしばしば感じる難しさを解決するのに役立てることができるかもしれません。

言語情報コミュニケーションコース

■ 特徴

本コースは、主として英語・日本語を研究対象にして、言語情報科学的分析あるいは社会言語学的分析を行います。コンピュータによる大規模コーパス(P9参照)の解析方法やアンケート調査・フィールドワークの方法を学び、新たな言語事実を発掘する技術を身に付けます。そして、新しく得たデータを分析し、説明する方法を考えます。その前提として記述文法と言語理論を重視します。また、情報機器やネットワーク技術を応用したマルチメディア利用のCALL教材開発の研究を行うこともできます。社会言語学的視点からは、ポライティクスストラテジー、バイリンガリズム、言語変化、地域方言・社会方言の研究などを行います。

■ どんな力がつくのか

言語理論的あるいは社会言語学的な観点から様々な言語現象を分析的に見る力が身に付き、言語事実をおろそかにしない姿勢と言語現象の背後で働く原理を探る方法が身に付きます。コーパスの分析にあたってはコーパス専用ツールではなくコーパス利用に特化されない一般的なソフトを用いることで、コーパスをブラックボックス化せず、コーパスを自由自在に処理できる力を獲得し、自分に必要な情報を抽出する方法が身に付きます。更に、コンピュータ支援型の言語教材を作成できる力が身に付きます。

■ 専門科目例

- 言語情報学講義01(言語記述方法論)
- 言語情報学講義02(意味論・語用論)
- 言語情報学講義03(形態論・統語論)
- 言語情報学講義04(英語語法文法研究)
- 言語情報学講義05(对照表現研究)
- 言語情報学講義06(バイリンガリズム)
- 言語情報学講義07(バイリンガル言語習得と脳科学)
- 言語情報学講義08(言語情報学の諸問題)
- 言語情報学演習01(英語語法文法分析演習)
- 言語情報学演習02(コーパスによる言語分析演習(日・英))
- 言語情報学演習03(Perlプログラミング)
- 言語コミュニケーション学講義01(社会言語学)
- 言語コミュニケーション学講義02(多言語社会論)
- 言語コミュニケーション学講義03(コミュニケーション論)
- 言語コミュニケーション学講義04(言語コミュニケーション学の諸問題)
- 言語コミュニケーション学演習01(言語調査法演習)

など



在学生の声



ゴ コウさん
(2019年4月入学)

私は中国からの留学生で、現在修士課程2年生です。以前から日本文化と日本語に深い興味を持っており、中国の大学で日本語を専攻していました。しかし、勉強すればするほど、日本語に関してわからないことが多くなりました。このような学び方では不十分だという思いを抱えたまま大学を卒業しましたが、やはり日本語をより深く研究し、自分の疑問を解決していきたいと思い、大学院への進学を決めました。

出身大学の先生方や先輩方からよく本研究科の話を聞いていました。

本研究科は国際的な人材を育成する力があると評価されており、様々な

地域からの留学生と接する機会が多いことも魅力です。国籍や年齢、職業など多様な背景を持つ人々が、言語教育という共通点のもとで、活発に議論するオープンな雰囲気を感じられます。実際に「研究基礎論」の授業では先生方の指導のほか、クラスメイトからもディスカッションを通じて様々なアドバイスを得ることができます。日々刺激を受けています。

言語情報コミュニケーションコースでは、言語学、言語情報科学、社会言語学の観点から、様々な言語や方言を対象として、言語現象を研究することができます。また、理論の学習に加え、日本語ボランティア活動など実習活動の機会にも多く恵まれています。私は約1年間、府立高校での日本語ボランティア活動に参加し、留学生の日本語サポートを担当しました。このような活動を通して、授業で学んだ知識を教育現場での実践で生かすことができ、自分が毎日成長していることを強く感じています。これからも本コースで学んだ知識や経験を日本語教育の現場で生かしていくことを考えています。



大矢 訓史さん
英語教育学プログラム
2016年度修了
立命館守山中学校・高等学校
専任教諭



山下 美朋さん
英語教育学プログラム
2011年度修了
立命館大学生命科学部准教授



原澤 尚輝さん
日本語教育学プログラム
2015年度修了
近畿大学 日本語非常勤講師

私は学部卒業後、一度就職に立ちました。しかし、言語習得理論や教授法について何も知らなかった私は危機感を覚え、大学院へ進学することを決意しました。研究テーマは文法に関するものでしたが、情意面にも興味があったため、テーマを決めるあたり悩みました。しかし、その過程で得た知識は、現在の私の教育活動に大きく生きています。熱心な教授陣、そして幅広く学ぶことができる環境、どちらか一方でも欠けてしまうと充実した学びは達成されません。そういう意味では、本研究科は私にとって理想的な学習環境であったと言えます。

言語教育情報研究科のTESOLの授業で、英文ライティングの方法とコーパスについて学んだことがきっかけとなり、その後オーストラリアの大学院に進学。帰国後もライティング指導を中心に研究を続けてきました。2018年に提出した博士論文では、日本人大学生の英文の論理的側面をコーパス言語学的手法で分析しました。私の研究生活の原点をすべて言語教育情報研究科での学びにあったと言つても過言ではありません。素晴らしい先生方から学んだ言語教育における最新の知識と教育への姿勢は、現在、大学で教える立場になった今でも生かされています。今後も本研究科で多くの方に勉強する楽しさを知ってほしいと願っています。

学部生時代に副専攻として日本語教育を勉強していましたが、もっと本格的に日本語教育を学びたいと思い言語教育情報研究科に入りました。言語研には様々なバックグラウンドをもつ同期や先輩方、そして先生方がいらっしゃり、毎日がとても刺激的でした。結果、日本語教育だけでなく物事を客観的に見る力や論理的に考える力を身につけることができ、言語研での2年間は私の財産となりました。修了後はUAEのアブダビにある高校で日本語を教えていますが、今でも仕事で悩んだ時は言語研の同期や先生と連絡を取り、相談に乗ってもらっています。

私たちも言語教育情報研究科で学びました。

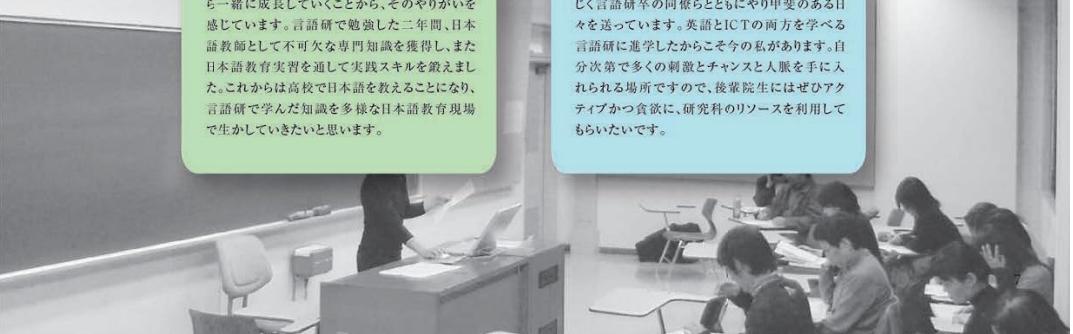
陳 文婷さん
日本語教育学プログラム
2016年度修了
日本教師
深圳市惠學教育有限公司
(2017-2018)
深圳市光明高级中学 (2019)

卒業後、中国に帰って、オンライン教育に関する仕事をして2年半が経ちました。異なる学習目的を持つ学生たちに日本語を教えることは私にとって勉強でもあり、挑戦でもあります。日本語教師として、まだ未熟者ですが、学生たちと関わるながら一緒に成長していくことを、そのやりがいを感じています。言語研で勉強した三年間、日本語教師として不可欠な専門知識を獲得しました。また日本語教育実習を通して実践スキルを鍛えました。これからは高校で日本語を教えることになり、言語研で学んだ知識を多様な日本語教育現場で生かしていくことを思っています。



木村 修平さん
言語情報コミュニケーションコース
2005年度修了
立命館大学生命科学部准教授

私は現在、立命館大学生命科学部などで展開している「プロジェクト発信型英語プログラム」の運営に関わっています。英語とICTを知的生産のインゲンと位置づけるこのプログラムでは、言語研で学んだことが十二分に活用できており、同じく言語研卒の同僚たとともにやり甲斐のある日々を送っています。英語とICTの両方を学べる言語研に進学したからこそ今の私があります。自分次第で多くの刺激とチャンスと人脈を手に入れられる場所ですので、後輩院生にはぜひアクティビティかつ貪欲に、研究科のリソースを利用してもらいたいです。



修士論文タイトル一覧

【英語教育学プログラム】

Foreign Language Enjoyment and Anxiety: A Case Study on an Australian Intensive Program
Inhibitory Control in Language Switch of Chinese-Japanese-English Trilinguals: An fNIRS Study

【日本語教育学プログラム】

主文末にみられるムードの「た」の過去性

韓国人日本語習者の発音における日本語母語話者と韓国人日本語習者の違い - 母語話者との接触度合いの影響に焦点を当てて -

千葉県市原市における伝統方言の若年層への継承について

【言語情報コミュニケーションコース】

「自指すは構文」に関する一考察 -日本語における周辺的な構文の構文ネットワーク-

モンゴル語の外来語における音韻構造の探究

進路

教職

【公立学校教諭】
京都府 京都市 亀岡市 大阪府 大阪市 兵庫県 西宮市 愛媛県 岐阜県 福井県 愛知県
神奈川県 東京都 京都教育大学付属桃山中学校 東京大学附属中等教育学校

【私立学校教諭】

立命館大学系列中学・高等学校 同志社大学系列中学・高等学校 西大和学園中学校・高等学校
京都女子高等学校 京都女子中学校 京都光華中学校高等学校

【日本語教師】

京都日本語学校 京都文化日本語学校 ECC国際外語専門学校 メリック外語学院 関西外語専門学校
大阪YWCA 立命館大学 立命館アジア太平洋大学 滋賀大学 九州大学 山東交通学院(中国)
建陽大学(韓国) タマサート大学(タイ) 青年海外協力隊

企業

三菱自動車 サントリー ソニー 富士通 富士ソフト 日本電気 アップルコンピューター・シンガポール法人
日本航空 JTB ブロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン サッポロビール ヨドバシカメラ ニチコン 京セラ
日本通運 日本生命 かんぽ生命 ユーシン精機 国立大学法人職員 私立大学職員 國際協力機構
(JICA) 國際交流基金

進学

立命館大学文学研究科 立命館大学政策科学研究科 立命館大学先端総合学術研究科 京都大学文学研究科
京都大学人間・環境学研究科 大阪大学言語文化研究科 名古屋大学国際開発研究科 筑波大学人文社会科学研究科 京都外国语大学外国语学研究科 関西大学外国语教育学研究科 関西学院大学言語
コミュニケーション文化研究科・文学研究科

資格・免許 教育職員免許状

本研究科では、高等学校専修免許状(英語)と中学校専修免許状(英語)の取得が可能です。1種免許状を既に有している場合は、指定された科目のうちから24単位以上単位取得し、修士学位を取得することによって専修免許状を取得できます。

TESOL

TESOL(Teaching English to Speakers of Other Languages)は英語非母語話者への英語教授を表す用語です。本研究科では、海外大学において夏期にプログラムを開講しており、修了者にはCertificateが授与されます。この資格は日本で英語教員になるために必要ではありませんが、英語教育の専門資格として国際的に評価されるものです。

日本語教員養成課程

言語教育情報研究科では、法務省出入国在留管理局が定めた「日本語教育機関の告示基準」と「日本語教育機関の告示基準解釈指針」を満たした日本語教員養成課程を設置しています。日本語教育学プログラム所属院生が所定の要件を充足し研究科を修了した場合、「日本語教員養成課程修了証」を授与します。

究論館 (大学院生用研究施設)

2015年4月に開設された大学院生のための研究施設です。院生が個人で利用できる机(キャレル)や、研究科や専門を超えて、グループでのディスカッション、共同研究、研究成果の発信・共有などができる院生のためのスペースとしてリサーチコモンズを設置しています。

多文化共生をめざした日本語教育プロジェクト

「多文化共生をめざした日本語教育プロジェクト」は、衣笠キャンパス近隣地域の住民や立命館大学の留学生、京都府内の外国人にルーツをもつ子どもたちなどを対象に、院生が日本語のサポートをするプロジェクトです。プロジェクトは、基本的に院生によって協働的に運営され、学生募集、担当者や教室スケジュールの決定、対象者のニーズに応じた日本語や児童・生徒の教科などのサポート、多文化交流会等の活動を協働的に行っています。学習者の母語を利用した教え方、コミュニケーション能力を引き出すためのタスクなど、院生同士で工夫し合い、一人一人の学習者に向き合いながらプロジェクトを進めています。また、言語教育情報研究科では、本プロジェクトを多様な面から理論的にも考えていく機会とするため、学習会やシンポジウムを開催しています。

言語脳科学研究

言語教育情報研究科では、2010年度以降研究科プロジェクトとして脳科学による言語処理メカニズム解明研究を、教員と院生が共同研究者となり取り組んでいます。科研費等学内外の研究費を獲得して、人文系研究科としては極めて珍しい大型機器(島津製作所 OMM-3000)を所有した特色ある研究を進めています。日本人英語習得対象に英語力向上と脳賦活の変化、英語圏からの帰国生の日本での英語力保持と脳賦活変化、留学生対象の日本語力テストを脳賦活面から検証、メタ認知力に関してバイリンガル児とモノリンガル児の比較、西洋脳と東洋脳比較等の研究を行っています。効果的英語習得方法に繋がる方策を探るための基礎研究を続けています。

コーパス

コーパスとは、コンピュータで処理できる大量の言語資料を指します。人間であれば100年かかる作業がコンピュータだとほんの数秒でできます。機械がもつこの桁違いの情報処理能力を駆使して、これまでの言語研究では見逃されてきた構文や、語と語の慣習的な結び付きであるコロケーションなどを詳細に記述することが可能になりました。コーパスから適切に情報を抽出するためには言語学的な分析力と機械についてのある程度の知識が不可欠ですが、これらの知識を駆使し、本研究科が保有する高性能のコーパス用サーバーと膨大な量のコーパスを活用することで、英語・日本語の諸特徴を探っていきます。現在はコーパスを処理するための便利なソフトがありますが、可能な限りそれらには依拠せず、処理過程を透明にし、コーパスをブラックボックスにしない方法を考えます。

多様な入試方式

入学時期	試験方式	入試日程
4月	一般入学試験	9月、2月
4月	外国人留学生入学試験	9月、2月
4月	APU(立命館アジア太平洋大学)特別受入学試験	9月、2月
4月	社会人入学試験	9月、2月
4月	社会人入学試験(自己推薦)	9月、2月
4月	社会人入学試験(協定)	9月、2月
4月	学内進学入学試験	7月、9月、2月
4月	飛び級入学試験	2月
9月	一般入学試験	7月
9月	外国人留学生入学試験	7月
9月	APU(立命館アジア太平洋大学)特別受入学試験	7月

*9月入学については、APU特別受入学試験を除き、日本語教育学プログラムは募集しません。

*選考方法、出願資格などの詳細は、各年度に発行される入試要項でご確認ください。

教員紹介

英語教育学プログラム

David Coulson 教授

専門領域 Second Language Vocabulary Acquisition, TESOL, CLIL, SLA



研究テーマ

My research activities started with investigations into Task-Based Learning and conversation analysis. Now, I am also interested in issues relating to vocabulary learning and acquisition. Recently, I have conducted research on vocabulary speed and decoding, and repetition in word learning. Additionally, I have been active in publishing research on CLIL and the development of academic writing. These are all active areas, and I would like to supervise research in them.

清水 裕子 教授

専門領域 英語教育学、言語テスト、ESP:English for Specific Purposes



研究テーマ

日本語教育における測定と評価に関連する領域を研究対象としています。最近の英語教育における産出能力テストの導入の動きは、様々な波及効果をもたらすと予想され、教室環境での言語テストとカリキュラムの親和性の経年分析を通して、テストが備えるべき要素のひとつである妥当性について研究を進めています。もうひとつのがカリキュラム設計や教材開発にも興味をもっています。

田浦 秀幸 教授

専門講義 英語教育学、第2言語習得論、(神経)心理言語学、言語習得・保持・喪失



研究テーマ

大きく分けて2分野の研究を進めています。第1のテーマは(神経)心理言語学分野に関するもので、バイリンガルの第2言語獲得・保持・喪失や言語面・脳科学面両面から扱っています。第2の研究テーマは、効果的な英語教育についての研究です。理論研究と現場実践を車の両輪と考え、どちらにも偏らずそれぞれお互いに還元できる研究を心がけています。

津熊 良政 教授

担当講義 言語間における対照音声学的研究



研究テーマ

わたしは、主にリズム・アクセント・イントネーションなど言語間における韻律的特徴の対照音声学的研究を課題として、日本語、英語、中国語等の韻律研究を続けています。実験音声学的手法を用い、スピーチデータの音響分析を通じて、諸言語の様々な音声特徴と音韻ルールを客観的に解明し、その結果を外国语教育、とりわけ英語や日本語音声教育に生かしていきたいと考えています。

湯川 笑子 教授

担当講義 中学校高等学校の英語教育、小学校英語教育、バイリンガル教育、英語教師教育



研究テーマ

日本の学校教育における英語教育、特に小学校英語教育および、その成果を生かす中学校英語教育の有り方、および教師教育について研究しています。バイリンガル教育の観点から、大学における英語開講の科目の運営方法、母語である日本語をどのように使用するか効果的かなどについて実践をしながら研究を進めています。

日本語教育学プログラム

有田 節子 教授

専門領域 言語学、日本語学、日本語文法研究の日本語教育への応用



研究テーマ

現代日本語の文法と意味についての言語学的研究を日本語教育に活かすことを目指しています。日本語のみならず、さまざまな言語の文法現象の分析に適用可能な枠組みで研究を進めることにより、さまざまな母語を持つ学習者に対する日本語教育に貢献したいと思っています。特に、日本語非母語話者の日本語教育者、日本語研究者にとって本当に必要な知識・技能とは何かについて常に考えながら研究・教育に取り組んでいます。

大野 裕 教授

専門領域 日本語教育学、言語学



研究テーマ

日本語教育の分野では、教材開発を中心的な課題にしています。1990年代に作った「げんき」に代わる斬新な教科書を作りたいと考えています。言語学の中では特に命題態度などの現象の形式意味論的な分析を進めています。また、青空文庫のような電子テキストアーカイブ構築に必要なテキスト処理を3つの研究テーマとしています。

遠山 千佳 教授

専門領域 日本語教育学、第二言語習得



研究テーマ

文法と談話のかかわりに關心をもち、文脈や状況から分析する機能主義的アプローチで研究を進めています。たとえば、日本語の係助詞「は」による談話のトピック管理について、母語による違いやその要因などを探っています。また、ある構文(分裂文や引用文など)がどのような文脈を誇るかにも興味を持っています。そこでこれらの研究結果から談話教育に提言ができると思っています。



北出 康子 教授

専門領域 日本語教育学、言語文化教育学、談話分析、教師研修

研究テーマ

多文化共生社会における言語能力やそれを伸ばす教師に求められる能力について研究しています。また、そのような能力を分析するための研究手法や育成するためのカリキュラム開発に取り組んでいます。具体的には、①言語学習者や教師のライストリー分析、②多言語文化背景を持つ話者間の会話を対象とした分析、③共修(受講生の多様な文化背景を活かした学び)カリキュラムの開発、などです。

平田 裕 教授

専門領域 日本語教育学、日本語の歴史言語学、言語変化とパリエーション



研究テーマ

大きく分けて2つの分野の研究をしています。第1は、教室での日本語教授法、教材、テスト、自習の立位置づけや内容などについて、より普遍的で一貫したアプローチによって向上させていく方法を研究しています。第2は、競合する語形／表現から生まれる使い分けや取扱選択、様々な言語／方言で見られる共通の現象、似ているけれど少し違う現象などを検証し、どのように言語を捉えるべきかを研究しています。



大島 弥生 教授

専門領域 日本語教育学、談話分析

研究テーマ

留学生に対する日本語教育、特にアカデミック・ライティングについての教育・研究を行っています。留学生が産出する文章の特徴を探る中で、読んだものや聞いたものなどの外からの情報をどう自己の文章に取り込み、情報への理解や評議を表していくかに興味を持っています。留学生が目標とする学術論文ジャンルについても、その言語的特徴を探り、教材開発につなげたいと思っています。同時に、レポートを書くプロセスにおいてお互いに書き手・読み手となつて意見を交換する協働学習やジグソー学習の中でのうな情報のやりとりが起こっているのか、何を学んでいるのか、という点も研究テーマとしています。

滝沢 直宏 教授

専門領域 英語学、コーパス利用の方法論研究



研究テーマ

これまでの英語学研究で周辺的あるいは例外的とされ、不十分にあらわれた全く研究されていなかった構文の現象を発掘し、その詳細な記述と理論的意味合いを考察しています。また、句との慣習的結合関係であるコロケーションの記述的研究も行っています。最近は特にly副詞の振る舞いに関心をもっています。両者の研究に深く関わるコーパス利用について、その方法論自体を研究対象にしています。

言語情報コミュニケーションコース

野澤 和典 教授

専門領域 応用言語学、テクノロジー利用の言語学習、異文化コミュニケーション



研究テーマ

大きく3分野で研究をしています。第一は応用言語学、教育工学、情報科学等に基づくTEL (Technology Enhanced Language Learning)に関する研究で、e-Learning / m-Learningを扱っています。例えば、マルチメディア教材開発やiPad活用の効果的な言語学習等の研究をしています。第二は、国際共同プロジェクトを含めた非言語コミュニケーションに関する異文化理解研究を心がけています。第三は、大学英語教育に関する研究で効率的な教授法や評価方法等を探っています。

佐々木 冠 教授

専門領域 言語学、日本語方言文法記述



研究テーマ

日本語の方言の文法記述が主な専門です。類型論や理論言語学の知見を活かして方言の形態音韻論、格、文法関係、意について分析しています。様々な言語の分析を参考に方言の文法を分析するだけでなく、方言の分析から理論的な貢献をすることも心がけています。言語接触による言語変化など社会言語学的なテーマにも関心があります。東日本の方言を中心に研究してきました。西日本の方言への理解を深めたいと思う今日この頃です。